



堂会長イ・ジェロク牧師

「もし私たちが、神と交わりがあると言つてゐながら、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言つてゐるのであって、真理を行つてはいません。しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」
(第一ヨハネ1:6-7)

皆さんは神と交わりがあると自信を持つて言えるでしょうか？ 交わりとは一方的なものではありません。単に自分のほうから相手を知っているからといって、交わりがあるとは言わないのです。國民ならば、自分の國の大統領が誰なのかみな知っています。ところが、大統領を知っているからといって、その方と交わりがあると言えるでしょうか？ 自分は大統領をよく知っていて、大統領が自分を知らなければ交わりがあると言えないのです。

神との間でも同じです。全知全能の神と交わりがあるなら、その人は求めることは何でも答えてくださる方なので、すべてのことが栄えて、まことに幸いな人生を歩むことができます。

1. 光である神と交わりがあるには

人はそれぞれ交わりの程度が違います。顔だけ知っている関係があるかと思えば、安否を聞くもう少し近い関係もあって、とても親密に秘密も分かち合える関係もあります。神と人との関係も同じです。まことの交わりになるためには、神が自分のことを知って、信じて認めてくださらなければなりません。

聖書には、神とでも親密な関係を保ったダビデが出てきます。彼は「わた

光の中を歩みなさい

しの心にかなつた者」と神に認められました。ダビデは神を愛して恐れ、すべてのことにおいて神に全面的に頼りました。サウル王に追いかかれていた時や戦争に出て戦う時も、子どもが親に聞くように、一つ一つ神にお伺いを立てました。

たとえば「第二サムエル5:19」「ペリント人を攻めに上るべきでしょうか？」彼らを私の手に渡してください」と仰いました。すると【主】が「上れ。わたしは必ず、ペリシテ人をあなたの手に渡すから。」と仰せられました。

また「第二サムエル5:23-24」には「そこで、ダビデが【主】に伺つたところ、【主】は仰せられた。『上って行くな。彼らのうしろに回って行き、バルサム樹の林の前から彼らに向かえ。バルサム樹の林の上から行進の音が聞こえたら、そのとき、あなたは攻め上れ。そのとき、【主】はすでに、ペリシテ人の陣営を打つために、あなたより先に出ているから。』」とあります。

「正義」とは「神の法、公義の基準に照らして正しいことを追い求めること」です。

「あわれみ」とは「愛と徳」を意味します。心に愛と徳があつてこそ、戒めを神の心にかなうように守れるからです。「誠実」とは「真心から神に対すること」すなわち「信仰」を意味します。したがつて、私たちが、神の子どもと云ひながら、答えと祝福をいただきたいなら、「本当に私は神様と交わりがあるのか？」自分を深く顧みなければなりません。

神はどれほど心の割札をしたかに応じて、祈ることはどんなことでも、すみやかに答えて祝福してくださいます。それほど神と交わりを保っているという証拠です。聖書に「してはならない、捨て去りなさい」と書いてあることはしないで捨て去り、「守りなさい、しなさい」と書いてあることを守つて行けば、私たちの心がよくなります。このように私たちの心の汚れたものを捨てて、真理で満たしていくことが「心の割札」です。

私たちが聖書に記された神のことばをよく心の糧として行う時でこそ、真理が私たちの中で滋養分になって、罪の性質はちりあくたして排泄され、真理の人になります。これがすなわち、神と交わりを保っている姿です。このような交わりを通して、私たちは光の中を歩んでいる靈的な人になります。

この世は罪と悪がはびこって、漆黒のように暗くなり、善と愛を見つけてくになりました。このような時に、熱心に神のことばを心の糧として完全に行い、誰よりも神と親密な交わりを保ち、何をしようが榮える祝福の主人公になりますよう、主の御名によって祝福して祈ります。

も、平和をつくるために努めます。困難がやつて来ても、神にゆだねて祈りながら、神の働きをやり遂げていきます。

2. 心の割礼によって聖められた心に変えられてこそ

「マタイ23:23」を見ると、イエス様が「わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは、はつか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なものの、正義とあわれみと誠実を、おろそかにしているのです。これこそなければならぬことです。ただし、十分の一もおろそかにしてはいけません。」と言われています。イエス様は、律法学者とパリサイ人たちが食に対する十分の一献金まで徹底的にささげているが、いざとなれば重要な心の割礼はしていないので、叱責されました。それでは「正義とあわれみと誠実」とは何でしょうか？

「正義」とは「神の法、公義の基準に照らして正しいことを追い求めること」です。心に愛と徳があつてこそ、戒めを神の心にかなうように守れるからです。「誠実」とは「真心から神に対すること」すなわち「信仰」を意味します。したがつて、私たちが、神の子どもと云ひながら、答えと祝福をいただきたいなら、「本当に私は神様と交わりがあるのか？」自分を深く顧みなければなりません。

ここで「人の子」とは、イエス様のことです。「人の子の肉」とは、神の真理のことばを意味します。なぜなら、ことばが人となつて、この地上に来られた方がまさにイエス様だからです(ヨハネ1:14)。したがつて「人の子の肉を食べる」とは、聖書66巻に記された神のことばを糧とすることです。また「血を飲む」とは、みことばどおり行うことを意味します。

私たちが聖書に記された神のことばをよく心の糧として行う時でこそ、真理が私たちの中で滋養分になって、罪の性質はちりあくたして排泄され、真理の人になります。これがすなわち、神と交わりを保つて、無礼に見えることもある。

まずは、行いで犯す内の行いを捨てなければなりません。たとえば、酒、タバコをしているならやめて、憤つて争つたなら、このような姿を捨てるのです。このように行いで犯す罪を捨てると、次は、もつぱら肉的なことを考えていたことを捨てな

心を良い地に耕すために捨てるべき真理に逆らう17の心

イエス様は人の心を地にたとえて、良い地、いばらの地、岩地、道ばたの地に分けられた。私たちの心の地を良い地に耕して多くの実を結ぶには、硬い土を碎いて石を取り出しおばらを抜かなければならない。このような過程は、真理に逆らうものと罪の性質を捨てていく作業を意味している。心を良い地に耕すために捨てるべき、神が嫌われる真理に逆らう心を17に分けてみた。木の大きい根を引き抜けば、無数の小さい根が抜けるように、17の真理に逆らう心を取り出せば、すみやかに真理の心になって、求めるものは何でも答えられる。一年を締めくぢながら、心を良い地に耕して、新年はさらに豊かな実を刈り取られるように。



かたくなな心	ひきょうな心	退く心	無関心な心	かしらになろうとする心	する賢い心
1 メッセージを聞いたり神のみわざを見ても、全く変えられない非常に硬い心である。このような心は、神の力あるわざを見ても心を受け入れないで、いつも疑うので、結局、滅びに至る。	2 自分が当然負うべき責任や役割を避ける心である。アダムが善惡の知識の木から取って食べた後、神がそれを食べたかと尋ねると、神とエバに責任をなすりつける姿がその例である(創世記3:11-12)。	3 何が本当に正しいか知りながら、恐れのために退く心のこと。外から何かの圧力がかかれれば、優柔不断な姿になると。これは自分にやってきた不利益や害を恐れる心から出でる。	4 自分と関係がないと思えば、全く関心を持たない心である。自分の益だけを求める心であり、自分の益に関係のないことに「このことに私が関わってどうする」と思う心である。	5 名譽や権勢を手に入れようとする心がここに含まれていて、すでにかいじになつた人々の中にもあります。かしらとして目下の人に仕えているのかも、もてなされ、仕えられようとしているのかなどをチェックしてみれば、すぐわかる。	6 一度決心したことを行わず、自分の益にしたがつて、あらかじめ決意したりする心であり、ここから裏切りも出てくる。する賢さは心から引き抜かなければならない悪の大きい根の一つである。
7 する賢さから出た心であり、あることについて指摘されれば、そのたびに「この時はこうで、あの時はああで」と言い、すぐ言うことが変わつて理由をつける。言い訳や弁解をよくする人にしばしば見られる。	8 自分が間違いを犯したこと隠そうとする心があるで、自分に有利な話はして、不利な話はしなかつたり、自分がよくやつたことはふくらまして言って、やれなかつたことは少なめに言つたりする。	9 他人は知らないことだと思って、間違つたことについて、自分がやつたことなのに、やらかなかつたふりをする。他の人がぬぎを着せられて、不當な苦しみにあっても、知りふりして、誰かが知つて指摘すれば、その時はじめて「うづかれた」と弁解する。	10 自分を知らせたがり、優秀なぶりをして、自慢して、自慢して、誇ろうとする心である。このうちさらに良くない姿は、自分をよく知っている人の前では隠して、よく知らない人の前では懸命に目立たせようとするのである。	11 自分と関係のない人に對してはほとんど起こらないが、似た条件と環境を持つ人がほめられて愛されれば、なぜかおもしろくなる。表より心の底でそねんでねたむことが多い。	12 何かの事をするとき、反対する人を嫌つて仲間はずれにしたり、自分を指摘すれば嫌つて顔を背けたりする。指摘されるのがいやだから、誰かが真理に従つてアドバイスしたり指摘したりすれば、話を聞かないだけでなく、その人を遠ざける。
13 高ぶりの心があれば、礼儀に反する姿が出てくる。無礼な言葉と行動で相手の心を痛めてつらくさせ、自分にだけ合わせていで心のが一つになれない。	14 他の人のために自分を犠牲にしない心	15 人の顔色だけ見る心	16 弁解する心	17 むなし心	美しい天国を望みながら・・・
13 高ぶりの心があれば、礼儀に反する姿が出てくる。無礼な言葉と行動で相手の心を痛めてつらくさせ、自分にだけ合わせていで心のが一つになれない。	14 他の人のために自分を犠牲にしない心	15 人の顔色だけ見る心	16 弁解する心	17 むなし心	美しい天国を望みながら・・・



Manmin Central Church

Tel: 82-2-818-7042, 7063
Fax: 82-2-818-7048
www.manmin.org
e-mail: ksy7042@hotmail.com



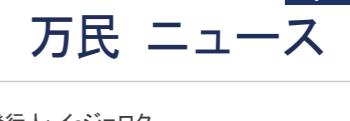
GLOBAL · CHRISTIAN · NETWORK

Tel: 82-2-824-7107
Fax: 82-2-813-7107
www.gcvtv.org
e-mail: webmaster@gcvtv.org



World Christian Doctors Network

Tel: 82-2-818-7039
Fax: 82-2-830-5239
www.wcdn.org
e-mail: wcdnkorea@gmail.com



万民 ニュース

発行人: イ・ジェロク
編集者: ビン・グンソン
www.manmin.org/Japanese
編集発行: 万民中央教会
〒152-046 韓国ソウル市クロ区クロ3ドン235-3
TEL: 82-2-818-7042 FAX: 82-2-818-7048